

平成 21 年 5 月 18 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520119

研究課題名（和文） 大東亜戦争期における本居宣長受容の総合的研究

研究課題名（英文） The overall research about the receipt of MOTOORI NORINAGA in the period of the Pacific War

研究代表者

田中 康二（TANAKA KOJI）

神戸大学・人文学研究科・准教授

研究者番号 90269647

研究分野：日本文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：本居宣長・大東亜戦争・日本精神・松坂の一夜・敷島歌・没収指定図書・公職追放

1. 研究計画の概要

本研究は本居宣長および国学の近代における受容の具体的様相、とりわけ大東亜戦争（太平洋戦争）の時期において、いかに誤読され曲解され利用されたかということ、文学研究の立場と思想史研究の立場の両様からアプローチするものである。戦前・戦中期に刊行された研究書・雑誌・新聞などを丹念に調査し、その中から宣長観（国学観）を汲み取ることによって、逆に現代における宣長研究および国学研究がどのように生成してきたかということ、を明らかにしようとするものである。

2. 研究の進捗状況

1 年目は主に新聞や雑誌の調査を行い、データを収集した。2 年目は収集した書籍の分析を行い、これにより「日本精神」と宣長観（国学観）との関連性を追求した。「日本精神」とは満州事変を契機として日本国内で流行した戦時イデオロギーであり、敗戦まで日本人の行動様式を支配し続けた。なかでも流行する前から日本精神を唱えている安岡正篤や異なる意味で用いていた和辻哲郎の日本精神観の変容を通じて、この時期におけるイデオロギーがどのように生成されたのかということを追及した。3 年目はさらに「松坂の一夜」伝説や敷島歌の受容、あるいは荻生徂徠や平田篤胤との学統問題について明らかにした。「松坂の一夜」伝説は佐佐木信綱による美文に基づく国学の学統を保証する美談であるが、それが小学校の国語読本に掲載されることにより、国民的常識となった。また敷島歌は宣長の自讃歌であるが、それが

武士道精神を体現するものとして解釈され、曲解され、最終的には神風特別攻撃隊の部隊名「敷島隊・大和隊・朝日隊・山桜隊」として名付けられ決定的となった。徂徠と篤胤の学統の問題は「松坂の一夜」伝説を相対化する視点を提供するものであり、戦時において宣長の学統観が変質する様子が如実にうかがえるものである。また、このほかに宣長を扱った著書がその内容の真摯さとは裏腹に、序文において時局迎合的な言辭を弄して思想局や特高警察の目を欺いていたことや、蓮田善明をはじめとする日本浪漫派が著した書籍は正真正銘の時局煽動の書であったことを論じた。このように報告書の基礎となる論文を執筆した。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

4 年計画の最終年である本年は、報告書作成に向けて最終段階に来ている。計画は極めて順調に進捗し、当初に立てた計画どおりに進みつつある。出版社との交渉も順調に進んでおり、研究成果を一冊の研究書としてまとめるべく、校正の段階に入っている。

4. 今後の研究の推進方策

2009 年 8 月 15 日（終戦記念日）に研究報告書を『本居宣長の大東亜戦争』としてペリカン社より上梓する予定である。出版した書籍を本年度の研究費補助金を充てて購入し、専門を同じくする研究者および専門の隣接する研究者に配布し、ピア・レビューを受ける予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5件)

- ① 田中康二「江戸派の血脈」(『神戸大学文学部紀要』、査読なし、36号、2009年、pp1-19)
- ② 田中康二「江戸派の出版」(『神戸大学文学部紀要』、査読なし、34号、2007年、pp45-77)
- ③ 田中康二「小山田与清の出版」(『文化学年報』、査読なし、26号、2007年、pp51-79)
- ④ 田中康二「文学は「誤読」で行こう」(『江戸文学』、査読なし、36号、2007年、pp1-6)
- ⑤ 田中康二「葛西因是『通俗唐詩解』の解釈戦略」(『江戸文学』、査読なし、36号、2007年、pp61-72)

〔図書〕(計 1件)

- ① 緒形康編、双文社出版、『一九三〇年代と接触空間—ディアスポラの思想と文学』、2008年、pp62-91、第一部第三章「日本精神論の流行と変容」(田中康二)